

月刊

ホテル旅館

令和5年5月1日(毎月1回1日発行) 第60巻 第5号

5

2023
May

HOTEL RYOKAN MANAGEMENT

[提携誌] Cornell Hospitality Quarterly

特集

深耕する地域密着の形

ローカルホテル 最前線

旅館の投資研究

グランディア芳泉

(福井県・あわら温泉)

グランディア芳泉

GRANDIA HOUSEN 福井県・あわら温泉

あわら温泉屈指の大型旅館に
全室半露天風呂付きの新客室が登場。
首都圏や海外からの集客めざす



JR芦原温泉駅より車で約10分、北陸自動車道 金津ICより同約15分。日本庭園を囲むように3棟の建物が連結している。



さくら亭SUITE デラックス

1 全11室の「さくら亭SUITE」のうち6室を備える「デラックス」タイプの客室。広さ60㎡、定員4～5名。ベッドルーム、畳リビング、浴室がシームレスに配置されている。1泊2食付きの宿泊料金は3万4100円～(1室2名利用時、税サ込み、以下同)。2畳リビングから客室全体を見る。3テレビや鏡は、使わない時には戸棚に収納することができる。

4 ガラス張りのバスルームにはシャワーブース、洗面、バスタブを備える。洗面はガラス扉を挟み、リビングとバスルームで隣り合わせに2カ所用意する。5 大きなバスタブ。窓を開ければ半露天風呂として楽しむことができる。





ダイニング「福楽」

1 2022年4月にオープンした同館3カ所目の食事処。店内中央に口の字型のカウンター席、その周りに半個室、テーブル席を配置しており、約60名を収容できる。2 6名用の半個室。この他に2名用~12名用まで大小さまざまな半個室を用意。3 同店ではドリンクを「セルフベアリング」スタイルで提供する。地元の日本酒をはじめ、ワイン、ウイスキー、果実酒などのアルコールやソフトドリンクをフリーフローで楽しめる。



料亭「遊膳」

4 2013年8月にオープンした個室タイプの食事処。庭を望む2名席、家族で利用できるグループ席など15室の個室を用意し、最大約60名を収容できる。5 同店では創作懐石料理を提供する。写真は夏の前菜イメージ。



同店では、福井県産和牛ブランドであるA5ランクの若狭牛のしゃぶしゃぶをメインに、前菜や造りなどを提供する「しゃぶしゃぶ懐石」を提供する。

DATA

住所：福井県あわら市舟津43-26
電話：0776-77-2555
開業：1963年
敷地面積：約2万3000㎡
延床面積：約2万5000㎡
客室数：111室
改装設計：(株)basio
改装施工：(株)三田村工務店
投資額：約2億円

福井らしい日本美とモダンさを融合

今年開業60周年を迎える福井県・あわら温泉の「グランディア芳泉」が3月7日、新客室「さくら亭SUITE」をオープンした。全室60㎡以上のハイエンドな半露天風呂付き客室として、首都圏の富裕層やインバウンドなど新規顧客の開拓を狙う。

さくら亭SUITEは地上5階建ての「寛幹殿」4階をリニューアルしたもので、広さ70~80㎡の「プレミアム」タイプ5室と広さ60㎡の「デラックス」タイプ6室の計11室を備える。各室とも間仕切りを排したモダンな空間に、越前和紙や越前焼など福井らしい日本美を融合させたデザインが特徴だ。

従来より個人客を見据え段階的に設備投資を行ってきた同館。今回のさくら亭SUITEの開業により、館内には5つの客室ブランドがラインアップし、平均総消費単価は3万2500円ほどまで上昇する見通しだという。

(本文64頁)

さくら亭SUITE プレミアム

1 日本庭園側に5室備える「さくら亭SUITE プレミアム」。広さ70~80㎡、定員4~6名。ベッドルーム(一部2室)、畳リビング、浴室で構成される。窓際にはビューベンチを配し、眺望を楽しめるようにした。宿泊料金は3万7400円~。2 1の背面方向には畳リビングとセカンドベッドルームが位置。壁には越前和紙の書画を飾る。なお、ベッドはさくら亭SUITEの全室にシモンズの製品を採用した。3 バスタブと2ペーシングを配したバスルーム。こちらも窓を開けると半露天風呂になる。



さくら亭SUITEがある寛幹殿4階のエレベーターホールでは、桜のウォールアートが宿泊客を迎える。ここで各自好みの色浴衣を選び、客室に持ち込む。



4~6さくら亭SUITE共通の備品。4 アメニティにはPOLAのスキンケアセットや桜の香りの入浴剤などを用意。5 越前焼のカップ。エスプレッソマシンで淹れたコーヒーとともにくつろいでもらう。6 BOSEのBluetoothスピーカー。

グランディア 芳泉

(福井県・あわら温泉)



開業60周年の節目に 個人客に向けた バラエティ豊かな5つの 客室ブランドを整備

をめぐってきました。さくら亭スイートのオープンにより館内に5つの客室ブランドが揃い、その目標はひとまず達成できたと考えています」

**福井らしさを感じる
滞在型の新客室**

さくら亭スイートの説明に入る前に、既存客室について簡単に整理しておこう。グランディア芳泉ではさくら亭スイートの他、以下の4つの客室ブランドを擁している。

①「個止吹気亭」

全16室、広さ70〜140㎡、全室に温泉露天風呂を完備。比較的年配の利用者を想定した同館でもっともグレードの高い客室で、オーセンティックかつ伝統的な和の趣を重視した設えとなっている。

②「ゆとろぎ亭」

全14室、広さ40〜70㎡、全室に庭園露天風呂を完備。個止吹気亭のターゲットよりも少し若い30歳代〜50歳代に向け、客室で温泉を堪能したいというニーズに応える。

③「ここみち亭」

全13室、広さ40〜70㎡。全室ベッドを備える和洋室で、専用ラウンジ「ココミチラウンジ」ではフリードリンクサ

ながら設備投資を加速させ、2021年4月に客室「ここみち亭」(13室)、同年11月に客室「さくら亭なごみ」(11室)、22年4月に食事処「ダイニング福楽」と新施設を続々オープン。そして今年3月7日、新客室として誕生したのが全11室の「さくら亭SUITE」(以下、さくら亭スイート)である。

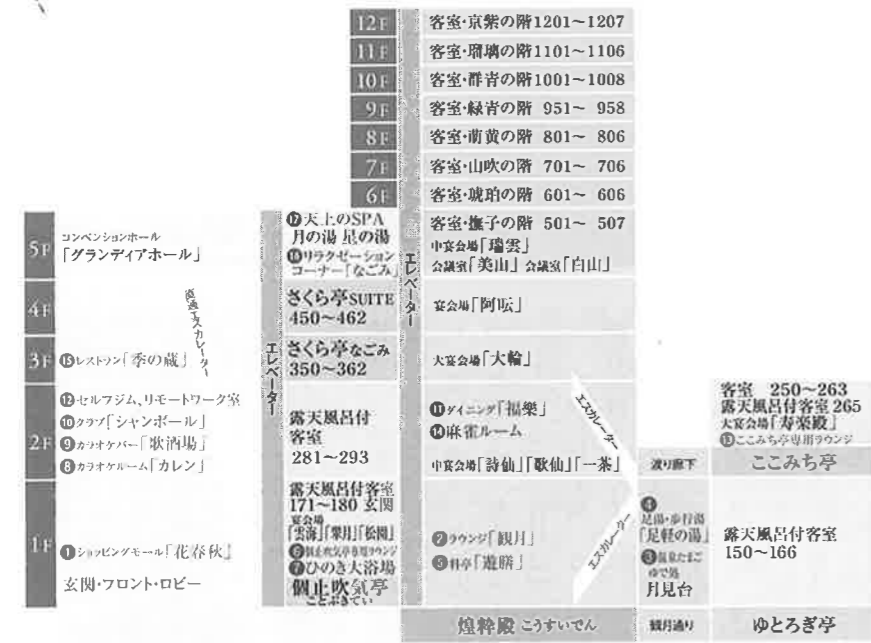
これらの設備投資の背景の一つにあるのが、23年度末に控える北陸新幹線の金沢〜敦賀間の開業だ。石川県の小松、加賀温泉、福井県の芦原温泉、福井、越前たけふの各駅が開業を予定しており、開通すれば東京から福井までの所要時間は3時間弱になる見込みと

福井県北端の田園地帯に位置するあわら温泉は、74本もの源泉を有し、「関西の奥座敷」と呼ばれて明治期より多くのの人々に親しまれてきた温泉地だ。同地に佇む「グランディア芳泉」は111室の客室を擁する大型旅館で、「貴粋殿」(2階建て)、「寛粋殿」(5階建て)、「煌粋殿」(12階建て)が日本庭園を囲んで連結している。

同館では近年、団体客から個人客へのシフト、顧客ニーズの多様化・高付加価値化、ワーケーションの定着など、外部環境の変化に応じて段階的にリニューアルを行ってきた。新型コロナウイルスの感染拡大以降は国の補助金を活用しながら設備投資を加速させている。

1ピスを提供。中高年を主客層としていたあわら温泉に若い世代を呼び込もうと、30歳代前後の若い女性をターゲットに企画された。

●グランディア芳泉 立面図



●グランディア芳泉の5つの客室ブランド

館名	階数	客室名	宿泊料金
寛粋殿	1階	個止吹気亭 ガーデンスイート	4万9500円~
	2階	個止吹気亭 コンフォートスイート	4万5100円~
	3階	さくら亭なごみ	2万5300円~
	4階	さくら亭SUITE	3万4100円~
貴粋殿	1階	ゆとろぎ亭	3万4100円~
	2階	ここみち亭	2万5300円~
煌粋殿	5~12階	煌粋殿	2万2000円~

※宿泊料金は1泊2食付き、税サ込み・入湯税別

本庭園を望む「さくら亭SUITE プレミアム」(5室、70〜80㎡)と遠くに白山連峰の山々を望む「さくら亭SUITE デラックス」(6室、60㎡)の2タイプにリノベーション。コンセプトは「洗練されたプライベート空間でこころ解き放たれる」に設定し、室内は間仕切りを極力排してバスルームの扉もガラス張りとすることで開放的な空間を創出した。和モダンのデザインを基調としており、桜の柱の格子、無垢の杉材のテーブルなど、木目をふんだんに取り入れながら、越前焼の茶器、キャリーケース風の越前筆筒、越前和紙の書画など福井らしい設えも採用している。機能面では半露天風呂、シモンズ製ベッド、BOSEのBluetoothスピーカー、コーヒーマシンを完備し、客室での滞在を楽しめるよう配慮した。同客室の総投資額は約2億円、このうち半分は国の補助金を活用した。

山口氏はさくら亭スイートのターゲットについて次のように話す。

「さくら亭スイートは、広い空間でのんびりと時間を過ごしたいというカップルのお客

さまのニーズに応えるものです。当館には複数の客室ブランドがあるので、他のブランドとバッティングせず、なおかつ北陸の温泉宿のなかでも新しいタイプの客室として計画しました。特に首都圏の30歳代〜40歳代、あるいは外国人のお客さまで、「自分らしい豊かさ・心地よさ」といった価値に共感する方に滞在型で使っていただきたいと考えています」

多様化するニーズに応え 食事処を3カ所に拡充

さくら亭スイートの開業に先立ち22年4月にオープンしたダイニング福楽は、2次会場として使用していたシアタークラブ垂合羅を転換したものとなる。福井県産和牛ブランドであるA5ランク若狭牛をメインにしたしゃぶしゃぶ会席を提供し、ドリンクは「セルフペアリング」スタイルにて用意。地元日本酒をはじめ、ワイン、ウイスキー、果実酒などのアルコールやソフトドリンクをフリーフローで楽しめる。

ダイニング福楽が誕生したことで、同館には創作懐石料理を提供する個室食事処「料



全室60㎡以上のゆとりある空間を確保した「さくら亭なごみ」に2室限定で用意する恐竜ルーム。福井県が恐竜王国として知られていることになみ、ヘッドボードやフィギュア、ぬいぐるみに恐竜の意匠を存分に取り込んだ。



グランディア芳泉 代表取締役専務
山口賢司氏

亭遊膳」約550㎡のオーブンキッチンも備えたブッフエダイニング「レストラン季の蔵」を合わせた3つの食事処と部屋食(個止吹気亭限定)という4つのオプションがあった。

「今後は特に海外や首都圏のお客さまの2泊や3泊という滞在型の利用を増やしていきたいと考えているのですが、その際に一番ネックになるのがお料理です。福楽がオープンしたことで一日目はブッフエ、2日目はお肉、3日目は懐石料理というように、少なくとも3日はまったく違う料理のバリエーションを用意できるようにになりました。また、魚介よりもお肉のほうがいい、自分が好きなものを好きだけ食べられるブッフエがいいなどお客さまによってニーズはさまざま。そうした多様化

する要望に応じて、いろんな食事場所があること自体が当館の売りになると思ったことも、新ダイニングオープンのも理由の一つです」(山口氏)

平均総消費単価は8000円超の大幅増

一連の改装により、平均総消費単価はコロナ前の2万4000円から3万2500円にまで大幅に上昇した。利用客の内訳は、個人客が90%、団体客が10%、発地別では福井県内が40%、関西が30%、中部が15%、東京が10%強となっている。また販売チャネルは電話や自社HPによる直予約が40%、OTAが30%、リアルエージェントが30%の内訳だ。

「福井県内のお客さまが多いというのは、あわら温泉全体の大きな特徴となっています。福井県内には大型温泉地が一つしかないということ、地方のため忘年会など何かイベントごとがある際に企業・個人利用を含めて旅館を使うケースが多いのがその理由です。ただし新幹線が開業すれば今後は東京のシェアが20%を越え、関西と中部のシェアが縮まっていくでしょう。当

館の場合、地域別の消費単価では東京のお客さまの単価が際立って高いので、東京のシェアが高まれば消費単価も上昇傾向になっていくと予測しています。

また、19年までは団体客が30%ほどを占めていましたが、新型コロナウイルスによってさらに個人客化が進みました。今後も県外の一般団体客は戻って来ないと見込む一方で、地元の団体客需要というのはまちがいになく戻ると思います。ですので、宴会場を全部なくすというような振り切った改装をするつもりはありません。団体客に対応できる施設が少なくなっている現状は、当館にとって逆にチャンスになるかもしれませんね」(山口氏)

今後はインバウンドや首都圏からの観光客誘客に向け、積極的な情報発信が必要となるだろう。山口氏はこう話す。「当館では女将、常務、若女将らが中心となって、SNSを使った情報発信に力を入れています。Facebook、YouTube、Twitter、TikTokなどを積極的に活用しており、これは首都圏からのお客さまの誘致に効果を発揮すると考えます。

海外については旅館単体でプロモーションしていくのがなかなか難しいので、行政と連携しながら福井県への誘客を進めたい。北陸の中での福井県ならではの特徴をどう打ち出していかというのが一つの課題です。半径10km圏内に5つの伝統工芸品が集まっているという福井の特色は世界で見ても稀有な例ということで、この伝統工芸を生かした体験とあわら温泉での滞在をセットにして販売するとうような、新しいプランが形になるとおもしろくなりそうです。また、福井が北陸の他県と決定的に違うのが、京都や大阪との距離の近さです。東京から入ってきて長野を経

由し、福井まで来ればもう目の前は京都。インバウンドの旅行者向け、成田空港から入って関西空港から出てもらうというようなルートの提案など、福井の滞在をアピールできるような売り方を考えていきたい」

団体向けの大型旅館から、特色ある客室群を揃えた個人客主体の旅館へと変貌を遂げたグランディア芳泉。60周年を迎え、同館の歴史は新たなフェーズへと進み始めている。